

第 4 回霧島市総合計画審議会 会議要旨

開催日時	令和 4 年 11 月 10 日（木） 15：00～16:30		
開催場所	霧島市役所 3 階 庁議室		
出席委員	福永会長、宮本委員、鎌田委員、林委員、中條委員、佐藤委員、新窪委員、高安委員、寺村委員、白水委員、中島委員（計 11 人）		
事務局	出口企画部長、上小園企画政策課長、藤田企画政策グループ長、川床サブリーダー、藤山主任主事、織田主事（計 6 人）		
コンサル	なし		
	公開・一部非公開又は非公開の別	公開	傍聴人数 0 人
会次第			
1 開会			
2 会長あいさつ			
3 議事			
(1) 後期基本計画（政策 3、政策 4、政策 5）			
(2) 第 3 期霧島市ふるさと創生総合戦略			
(3) その他			
4 閉会			
審議結果等の概要 国：委員 ㊦：事務局			
・後期基本計画（政策 3、政策 4、政策 5）			
→事務局が資料に沿って説明。			
基本計画について政策ごとに説明した後、質疑応答。			
（政策 3）			
国【みんなができること】に「かかりつけ医を決める」「時間外受診や重複受診をやめる」など、医療に対して市民が心掛けることを入れたほうが良いのではないかと。			
国生活習慣病の発症、重症化予防の取組として、CKD（慢性腎臓病）予防ネットワークや糖尿病重症化予防等の具体的な取組を記載してはどうか。			
国従業員が 50 人未満の事業所は産業医が不在の事業所も多く、健診やストレスチェックが十分でないこともある。【みんなができること】に、事業所が従業員の健康管理に努めるよう記載してはどうか。			
国今後は認知症対策が重要になってくる。市が取り組んでいる認知症初期集中支援チームの活動や認知症サポーター、認知症サポート医の活用などの内容を入れてほしい。			
㊦記載するように検討したい。			
国KPI に「まちかど丸ごと相談所、まちかど介護相談所の設置数」とあるが、相談件数が少ない現状がある。相談所を増やすのではなく、かかりつけの医療機関等で相談できるような体制の整備をしても良いのではないかと。			
㊦相談件数が少ない相談所も確かにある。それぞれの事業所の中身の充実についても対応していきたい。KPI の修正は検討する。			
国障がい児への支援、特に社会参加といった自立への取組に力を入れてほしい。			
㊦発達障害といった障がい児への支援ニーズが非常に増えており、国も障がい者の自立に向け			

た就労支援等の施策に力を入れている。来年度、個別計画の見直しを行う予定であるので、頂いた意見を盛り込み、自立への取組も重点的に行いたい。

園認知症の人をみんなで見守る「みまもりあいアプリ」の登録数を KPI に入れてはどうか。アプリを作って終わるのでなく、ダウンロード数を見ながらアプリの中身を改善していくなど、アプリを生かす取組まで行ってほしい。

●アプリは各種研修等で登録を呼び掛けている。KPI への記載については検討する。

園救急医療体制の充実に力を入れてほしい。

●新しく整備する医療センターは、救急科をつくることとしている。今後、始良地区医師会と協力して救急体制の充実に力を入れていく。

(政策4)

園KPI「市内体育施設の年間利用者数」「芸術文化事業の実践者及び鑑賞者の人数」「芸術文化団体に所属している人数」の目標値が現状値と比較してとても高いが、設定理由は何か。

●新型コロナウイルスの影響で、体育施設の利用制限や、芸術文化活動の制限で現状値が低くなっている。コロナ以前の数値に戻し、かつそれを上回るような目標を設定した。

園キャリア教育の充実に目指すため、【みんなができること】に市民一人一人が職場体験や合同企業説明会などの機会を通じて、市内の企業に関心を持つということを入れてはどうか。

●キャリア教育については、「霧島しごと維新」という事業に取り組んでおり、重要視している。産業界など市民の方々に協力いただいていることも多いので、検討したい。

園ICT 機器を活用した教育は今後非常に重要になると同時に、メディアリテラシーの教育も重要になってくる。メディアリテラシー教育についても入れてはどうか。

●ICT 機器は、学校での活用のほかに、家庭に持ち帰って活用できないか検討している。今後、より正しく活用することが重要になるので、入れるよう検討したい。

園高齢者と子どもたちの触れ合いの機会があれば、高齢者にとっての生きがいになったり、認知症予防になったりする。子どもたちにとっても高齢者の話を聞くことは非常に大事なことであるので、高齢者と子どもの触れ合いについても重視してほしい。

園学力だけでなく、子どもの人間力を育てるような教育にも力を入れてほしい。

園勉強したことを地域貢献としてアウトプットする場が必要である。学生が地域で活躍する場や企業の体制を整え、市全体で子どもたちの教育を応援する環境づくりというような文言があると良いのでは。

園特認校同士で学校行事や授業ができるような取組を進めてほしい。児童数が少ないため、限られた活動しかできず、PTA 活動も大規模校と活動量が変わらないため、子どもも保護者も負担が大きい。

●いくつかの特認校が集まったの集合学習や、ICT で学校間を繋いでの学習を取り入れ始めて

いるところである。学校合同での取組に引き続き力を入れていきたい。学校にも指導や協力を求めていきたい。PTA 活動については、改善に向けて検討に入ったところである。

園近代以降の構造物等も文化財として評価されるようになった。文化財の更新や追加も順次していただきたい。

●今後、相談や情報をいただきたい。

(政策5)

園KPI「霧島市が住みやすいと感じる市民の割合」「霧島市に住み続けたいと感じる市民の割合」は漠然としており、現状値も高いので、クリスマス活動等の具体的な取組に関する KPI でも良いのではないか。

●ご指摘の2つの KPI は、施策 5-3 だけでなく、全政策の成果が反映されるものである。KPI は再度検討したい。

園竹子地区のように、地域の中に入って活動する地域おこし協力隊を配置してほしい。本市の課題でもある空き家等の遊休不動産の活用について、他市では空き家バンクサイトの運営に専任の地域おこし協力隊が配置されていることもある。地域おこし協力隊の活用方法を検討していただきたい。

園女性の経営参画は、子育て世代の女性は家事や育児等の負担が大きく、起業に踏み出せない、仕事に力を入れたいができないという意見も多い。家庭によっては、家族や地域の理解、協力を得られないという現状もある。

園岐阜県海津市との交流同様、静岡市とも交流を進めてはどうか。静岡市でも薩摩藩が築堤に関わった歴史があると言われている。

●調査をしていきたい。

園移住者を年代別や世帯構成別で把握しているか。

●データとして抽出可能であるので、ここ数年の移住者の世代の推移等を検証していきたい。

園ターゲット次第でプロモーション方法も変わってくる。どの年代をターゲットにした目標であるのかを明確にしておくべきではないか。

・第3期霧島市ふるさと創生総合戦略

→事務局が資料に沿って説明。

園高齢者が憩いの場として公園をよく利用する。高齢者の健康、生きがいづくりとして、公園の整備を確実にお願いしたい。

園マイナンバーカードの普及やオンライン申請だけでなく、ICT や IoT の活用などを推進してほしい。取り組んでいることがあれば、PR してほしい。

●現在 DX 推進計画を策定中であり、今後、民間企業や高専、大学の教授等に話を伺いながら社会のデジタル化についても取り組んでいきたい。

・その他

㊦欠席した委員から事前に意見をいただいたので紹介する。政策3では、健康づくり推進のため、食育や農育について記載してはどうかとの意見や、子どもを生み育てる環境の充実として育児休暇について明記してはどうかとの意見があった。政策4では、市民の学習機会の提供として、子どもも関心が高いSDGs等の講座を実施してはどうかとの意見や、夜間中学の取組等、義務教育の未就学対応を課題に入れてはどうかとの意見があった。政策5では、外国人労働者も増えていることから、外国籍住民へ日本について学ぶ機会を提供してはどうかとの意見があった。

会議資料

○会次第

○第3回・第4回霧島市総合計画審議会資料2（政策3、4、5）、資料3